

研修報告書

氏 名	荒町 美紀
研 修 期 間	令和7年 9月27日～28日
研 修 名	第15回ジオパーク全国大会 十勝岳大会
研 修 場 所	美瑛町・上富良野町

① オープニングアトラクション

「上富良野町立東中小学校 清流太鼓」

上富良野町立東中小学校は、上富良野町の東側にある学校。

校区以外の子供たちも通える特認校で、全校生徒は31名だそうです。

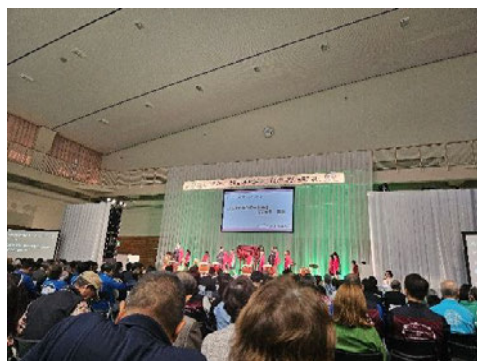
東中清流太鼓は、平成6年に曲が完成してから約30年間、子供達から子供達へと受けつかれてきた伝統文化で、運動会や学芸会、また町内の文化祭などでも披露し、

上富良野町文化奨励賞も受賞しています。

今大会で披露した曲は、子供たちが地域を担う人として、清らかに大きな河のごとく

成長することを願って作られたもので、4・5・6年生の演奏でした。

とても元気いっぱい、そして迫力のある演奏は、聴いている人たちにも元気を与えてくれました



② 分科会

「全国のジオパークで取り組んでいる防災活動～全国のGPで実践する自然関連プログラムの共有～」

今回参加した分科会は、防災活動がテーマでした。私自身、ガイド活動に加え防災活動を行う機会が増えてきたので、このテーマを選びました。

分科会の参加者は60名以上で、会場はいっぱいになりました。全体の時間は3時間でしたが、とても濃い時間となりました。

分科会の方向性の説明の後、箱根GPの荒木さんから、三松三郎さんの追悼のお話があり

その後、情報共有として「気象・気候の特徴や災害をマップ化」「GP検定を通した減災教育」

「栗駒GPにおける防災教育」「伊豆大島GPの防災教育」「白山手取川GPの防災教育」

「今こそ！ジオ×防災～現場の声から見える防災教育のヒント～」など6名から発表がありました。

どの地域の内容もとても素晴らしく、参考になる内容が多かった中、

栗駒GPでは、一つではなくいくつかのプログラムがあり、とても活発に活動していると感じました。

また、豊後大野GPの釘宮さんは、小学校の先生でありながらGPの活動に携わっており小学校の教育現場での活動がとても印象に残りました。防災・減災活動は、大人に伝える事も大切ですが、やはり子供の時から自分が住んでいる地域の災害の危険性を知る事や、備える事、また、命を守る事の大切さを伝えていくことが必要で、そのためには各学校と協力体制を整える事の重要性を改めて感じました。

事例発表の後は、グループに分かれてのWSで、各ジオパークで行っている防災活動や悩みの共有を行いました。私が参加したグループでは、やはりジオ×防災が中々うまくいっていない事。

ジオパークのガイドの中に防災は入っていない事、専門家との連携の難しさ、地域との連携の難しさが上がりました。解決策を出すところまでは到達できませんでしたが、話を聞いているとやはりどの地域もジオ×防災に難しさを感じているという事がわかりました。



④ ポスター発表

今回、初めてポスター発表に参加しました。

タイトルは「ここでしか出会えない景色・そして物語～火山・歴史・秘境をめぐるガイドコース～」火山マイスター仲間の佐々木美穂子さんと二人での発表でした。

コアタイムの時はたくさんの人に訪れていただきましたが、通路が狭く隣のポスターとの距離も狭かったので、二人で交互に説明をしました。自分の活動を知ってもらうよい機会になったので、来年も挑戦しようと思います。

⑤ まとめ・感想

今回の全国大会は、約700名の参加がありました。交流会が例年の形式と違い、3つの会場に分かれてしまったので会えなかった人もいましたが、逆に濃い交流ができたことは利点だったと思います。また、初めてのポスター発表を行いました。全国から集まるジオパーク関係者、ガイドの皆さんに、自分の活動を知ってもらう良い機会だと感じました。来年以降もポスター発表や口頭発表にも挑戦したいと思います。

全国各地から、ジオパーク関係者、協議会の方々、そしてガイドが集まる大会です。

当地域でも、たくさんの人に参加してもらい、交流や活動の幅を広げる機会にしてもらえると良いと思います。

全国各地からこれだけたくさんのジオパーク関係者が集まる機会の中々ないので今後も参加して交流を深めていきたいと思っています。